

戸苺理事長就任インタビュー 金城学院の輝ける未来と展望

建学の精神を礎に 使命感を醸成する教育環境作りに邁進

学院長として金城学院を牽引していらっしゃる戸苺創氏がこのたび、金城学院第9代理事長に就任されました。金城学院の歴史と伝統、建学の精神を礎とする女子教育のあり方や教育環境作りへの思いについてお話を伺いました。

Ⅰ 何をすべきかを見つけて、使命感を持ってそれに取り組める女性を育成

このたび理事長に就任するにあたりまして新たな重責を感じるとともに、あらためて金城学院のスクールモットー「主を畏れることは知恵の初め」を教育の礎として全人的な教育を行っていきたくて深く考えております。

金城学院の歴史は今から約127年前、アメリカ人宣教師のアニー・ランドルフ先生が名古屋に設立した女学専門冀望館にはじまります。当時はまだ女子に学問は必要ないと考えられていた時代ですが、ランドルフ先生

は自らの使命と考えて施されました。その後、アメリカ南長老教会から召命されたエラ・ヒューストン先生が引き継がれました。ヒューストン先生も日本に永住する覚悟と使命感を持って女子教育に力を注がれました。ヒューストン先生の教育は大変厳しく、絶えず生徒たちに「You must have dignity (品位を持ちなさい)」と指導されていきました。こうした女子教育に対する情熱や決意は並大抵のことではなかったと思います。金城学院の生徒たち、また学生たちにはこれからも機会ある

たびにランドルフ先生やヒューストン先生の思いや建学の精神を学んでいただき、在学中に自分自身が何をすべきかを見つけて使命感を持って将来の夢に向かって取り組んでほしいと思います。それが将来、社会に貢献できる女性となる礎になると信じています。

今の社会においては、女性でないと発揮できない力や可能性があるとは私は考えております。たとえば男性と女性が同じように仕事をしていても、その感性や能力の違いで内容や結果は違ってくることでしょう。また昨今では女性がリーダーシップを取ることも多くみられ、こうした女性の多くは女子大学出身であり、特に東海エリアでは金城学院大学出身者が多いといわれています。女子大学は女性の豊かな感性や能力を醸成する場であり、理事長としてあらためて今後もその環境を堅持、発展させていかななくてはならないと考え、その責務を果たしていきたいと思っています。



学校法人金城学院
戸蒔 創 理事長

2001年に名古屋市立大学小児科教授、2007年に名古屋市立大学病院病院長、2014年に同大学理事長・学長を経て2015年4月学校法人金城学院学院長に就任。2016年1月理事長に就任。



「よりよい影響を与えられる環境作りや教職員の意識改革に尽力

人は、お互いに影響を与え合いながら成育する生き物です。赤ちゃんのころはお母さんの行動や心に影響を受けながら育ち、学校に入学すれば教員はもちろんのこと、友達からも多くの影響を受けて成長していきます。その要となるのは心の教育であり、本学院の心の教育のよりどころとなるのはキリスト教の教えです。子どもから大人へと健やかに成長し、豊かな人生の礎を築いていくこの時期こそ、キリスト教教育のもとで学ぶことが大切だと感じています。

また学校という教育環境においては、教職員の存在や影響が大きいものです。幼稚園、中学、高校、大学とそれぞれに教育内容や教職員の立場は変わりますが、往々にして生徒や学生たちは教職員の言動の模倣をして成長していきます。まずはそのことに私たち教職員が気づき、生徒や学生たちにより影響を与える存在となるよう、自らの姿をあらためて見つめ直す必要があります。

たとえば大学の本部棟には履修支援センターや学生生活支援センター、キャリア支援センターなど学生のキャンパスライフを支援するさまざまな機関があります。そこにいる職員はみな、訪れる学生たちの悩みや相談に親身になって対応し、きめ細かなアドバイスをしています。こうした姿勢は学生たちにより影響を与えていると思います。とてもすばらしいことであり、今後も守っていくべき環境や関係性であると実感しています。

中学、高校では毎朝礼拝を行い、生徒たちは常に建学の精神に触れ、キリスト教教育の充実した環境に身を置いて学んでいます。こうした全人的な教育が実を結び、ときに一般の方々からお褒めの言葉をいただくこともあります。中学、高校は人として大きな成長を遂げる多感な時期です。だからこそ毎朝の礼拝や日々の学校生活を通して、金城生としてのDignityをきちんと身に付けられる環境をこれからも提供していきたいと

考えています。

金城学院の卒業生の多くは「友達に恵まれた」といい、卒業をしても「金城学院が好き」と話します。家族やご親族が多世代にわたって通われた方々も多く、金城学院愛を持っていただいています。これはまさに金城学院の大きな特徴であるとともに、誇りでもあります。

教育の目的は、学問だけではなく生きていく上での作法を教えることでもあります。時代とともに教育の現場や学生たちの考え方、将来の生き方は変わっていきますが、次世代につないでいくという大きな流れには変わりはありません。そのことを忘れず、理事長として伝統と名誉を守り続けるという使命感を持って教育に携わっていかなくてはならないと思っています。

次の100年を見据え、さらなる金城学院の発展、建学の精神にもとづいた次世代の女子教育の実現に尽力していきたいと思っています。